

- ・SOGI と家族づくり (藤井ひろみ・大手前大学, 布施香奈・国立社会保障・人口問題研究所)
- ・SOGI とお金 (平森大規・米国ワシントン大学)

4. 質疑応答

(布施香奈 記)

2021年日本地理学会春季学術大会

2021年日本地理学会春季学術大会が、3月26日(金)から3月28日(日)にかけて、東洋大学をホスト校としてオンラインで開催された。166件の一般発表、52件のポスター発表、4つの公開シンポジウムが行われた。このうち人口に関する発表は、一般発表の「人口・行動」セッションの中で、筆者によるものも含めて以下の3件がなされた。この他にも、定住をめぐる意識の変容や社会調査の方法論など、関連分野における興味深い発表がみられた。

柴辻優樹 (慶應義塾大学・学振 DC) 「東日本大震災後における母子世帯の被災地からの居住地移動」
久井情在 (国立社会保障・人口問題研究所) 「大都市部・中小都市部・農山漁村地域への将来の人口移動—「第8回人口移動調査(2016)」の結果から—

勝又悠太郎 (広島大学) 「インド・ウツタル・プラデーシュ州における人口動態の特徴—センサスデータを用いた分析—

(久井情在 記)

第54回国連人口開発委員会

2021年4月19日(月)から23日(金)の期間、米国・ニューヨークの国連本部とオンラインのハイブリッド形式にて第54回国連人口開発委員会(CPD: Commission on Population and Development)が開催された。新型コロナウイルス感染症により、昨年4月の第53回の開催は2日間に短縮され、実質的には延期に近い状態で、第53回のテーマ「人口、食糧保障、栄養と持続可能な開発」がそのまま今回のテーマとなった。今年は9月に国連食料システムサミット、12月には東京栄養サミットが開催される運びであり、それらに対する人口分野からのインプットとなるのが今回のCPDであった。

開会式は国連会議場での開催が、国連TVにて配信される、という形で行われ、モハメド国連副事務総長、バリー・ブルキナファソ外務大臣(録画)、カネム UNFPA 事務局長、屈冬玉 FAO 事務局長、ウングボ国際農業開発基金(IFAD) 総裁、ハリス国連事務次官補(経済開発担当)、カリバタ国連食料システムサミット事務総長特使(録画)の挨拶の後、チョーデン・ブータン王妃が基調講演(録画)を行った。議長はブルキナファソのティアレ大使、副議長は、トルコ、レバノン、ルーマニア、エルサルバドルから選出された。

本体会合はオンラインにて、パネルディスカッション、ステートメント読み上げ、という形式で行った。テーマである人口、食糧保障、栄養と持続可能な開発に関するパネルディスカッションは3種類行われ、UNFPA、FAO、WFP、WHOなどの国連機関、大学・研究機関、市民団体の専門家がパネリストとして登壇・報告し、オンライン参加者との議論がなされた。

FAOの「世界の食料安全保障と栄養の現状」報告書(2020)によれば、世界の栄養不足の人の割合は、2014年までは低下の一途であったがそれ以降わずかながらも増加に転じている。アフリカをは

じめとした地域では人口が増加している一方で、栄養不足の人の数の増加はもっと大きい。しかし栄養分野の課題は、栄養不足のみではなく、栄養過多（肥満）にも及んでおり、複雑な状況を示している。パネルディスカッションにおいて、筆者から、格差および食料の流通・フードロスはどう考えるか、と質問したところ、パネリストの Udomkesmalee 氏（タイ）より、国連食料システムサミットの後は日本が東京でサミットを行うが、その中で、食の質、また企業の参画についてとりあげることが重要ではないか、パネリスト Zurayk 氏（レバノン）より、栄養不良と肥満双方が問題になっているのは低所得国もそうであり、システムとして統合的に見る必要がある、との回答があった。

今回の CPD では、人口プログラムに関する専門家パネルディスカッションも行われた。ウィルモス国連人口部長の司会のもと、フランス、メキシコ、南アフリカの専門家および筆者がパネリストとして参加した。国連人口部の人口推計、人口高齢化と人口年齢構造、人口政策、新型コロナウイルス感染症による人口推計への影響、若年妊娠、母子保健・家族計画の指標、国際協力について、それぞれパネリストから意見を述べた後、議論が行われた。筆者は、国連人口部で提示している、期待高齢年齢（prospective old-age, 平均余命が15年となる年齢）という定義は重要であり、今後の国連人口データに含まれることが期待されること、妊産婦死亡率の算定にはすべての死亡を登録することが必要であること、少子化社会では、SDGs 指標3.7.1の家族計画指標の算定が難しいことなどについて述べた。

CPD では中絶、性教育、性の権利などをめぐり議論が紛糾し、決議案が採択されない状況が2017年より続いていたが、今回は無事採択された。

次回第55回 CPD のテーマは「人口と持続可能な開発、特に持続的で包摂的な経済成長」、第56回は「人口、教育と持続可能な開発」に決定された。

会議中の公式ドキュメント、パネルディスカッション資料、各国ステートメント、動画、プレスリリースなどは、すべて国連のウェブ (<https://www.un.org/development/desa/pd/events/CPD54>) より閲覧・ダウンロードできる。 (林 玲子 記)